

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110413994		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム 青空		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番13号		
自己評価作成日	令和4年1月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0110413994-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人福和会グループの敷地内に、グループホーム 青空があります。立花病院とケアハウスに隣接し渡り廊下でむすばれています。介護と医療の協力の基に、安心安全なグループホーム日常生活を送ることができています。施設の理念、ゆっくり、いっしょに、楽しい暮らしを目標に笑顔で優しい介護を実践しております。施設から直接出られる広い中庭は、季節の花や北国の代表的な樹木が茂り、お天気の日には毎日散歩が楽しみです。ウォーキングロードを歩み、ベンチに腰掛けて風光を感じ穏やかなひと時を過ごします。冬期間は庭に面した大きな窓から、青空や眩しい雪景色、吹雪の様子を温かい室内から眺めることができます。春には節分、雛祭り、畑作業、夏にはサクランボ狩り、秋には収穫祭、冬はクリスマス会など各種イベントを計画して皆さんで楽しんでます。健康維持のため毎日体操レクリエーション活動、専属栄養士献立のバランスのよい美味しい食事、会話の機会を大切にしています。入居者様が今持てる能力を保ちながら、明るく楽しく落ち着いた生活が続いていかれますように支援させていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和4年2月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR手稲駅から「グループホーム 青空」までは法人の無料送迎バスも出ており、車でも数分の距離にある。医療法人福和会の広い敷地内に一般病床のほか、療養病床や精神病床を有する立花病院を中心にケアハウス、グループホームがあり、渡り廊下でつながっている。感染症予防対策として恒例の外出行事が中止となり、外来者との面会制限があるなか、閉塞感を軽減するために管理者や職員が利用者と一緒に、春から秋までは毎日中庭に出て散歩し、専用の花畑や菜園の手入れをしながら外気に触れている。共有空間のダイニングルームでは、午前中に日替わりでリハビリ体操、タオル体操、腕上げ体操、大吉体操、早口言葉や九九など様々な体力低下を補うための体操をしている。午後は折紙、大人の塗り絵、貼り絵、季節ごとの壁飾り、カレンダー作成等のレクリエーションをしている。管理者は看護師でもあり、職員も病院勤務や介護現場で勤務経験のあるベテランの人材である。最後までその人らしく過ごしながら尊厳を重視した暮らしが継続できるよう、職員は利用者に対し敬意をもって接している。人間らしさと優しさに基づいた認知症ケアが、1ユニット9名の家庭的な雰囲気なかで実践されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護理念があります。穏やかな暮らしを大切に、利用者の命と心のケアとご家族の心身の緩和に努め、ゆっくり、いっしょに、楽しい暮らしを目標に職員一同日々取り組んでいます。	運営理念の「穏やかな暮らしと心と体の緩和ケア」と、介護理念の「ゆっくり一緒に楽しい暮らし」を玄関と事務室に掲示している。職員の名札裏に携帯して意識づけをしながら理念に基づいた介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策のため面会制限継続しています。運営推進会議はご理解を得て書面にて実施しています。町内会に加入していますが会長さんと電話連絡となっています。コロナ禍で交流は出来ていません。	運営推進会議に町内会長から意見をもらうため連絡を取っている。近隣のグループホームと感染症の対応について情報交換をしている。感染症の流行で中止している幼稚園児の定期訪問は、感染症が落ち着いた時期に再開する予定になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症対策で地域との交流は中止しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症対策で令和2年3月から書面にて運営推進会議をおこなっています。ご意見、ご助言の連絡があればいつでも対応させていただく文言を記載しております。	書面での運営推進会議を年6回開催し、事業所の報告の他に町内会長や地域包括支援センター担当者からの意見を含めて議事録に記録している。家族へ会議案内を出している。議事録は関係者へ毎回郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍で札幌市の会議はありませんが、要介護更新申請などで担当者と書面での協力関係継続しています。リモート手稲区管理者会議に参加して情報交換しております。	利用者の認定調査は、感染防止のため玄関の風除室のガラス越しに状況を確認するなど、相互協力を行っている。各種の提出書類や要介護状態区分の変更、認定期間の更新等で担当者へ連絡をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止会議を3ヶ月に1回開催して、日々ミニカンファレンで具体的な事例について職員が話し合いをして実践につなげています。認知症高齢者に対する虐待防止・身体拘束適正化研修リモート会議に参加して学習し職員間で話し合っています。玄関の施錠は防犯上の理由で夜間のみ行っています。	身体拘束廃止委員会を令和3年は4回開催している。それらに係る研修として、Webで配信される認知症高齢者に対する虐待防止や身体拘束適正化研修を受講し、全職員へ資料を配布し、身体拘束について正しく理解しケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、職員への周知を行っています。身体拘束廃止会議で議題にして、職員間で意見交換を行っています。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の研修を受けて制度の理解を深める事ができました。現在後見人制度を利用している方がいます。後見人の方と必要時報告調整を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約説明は、ご家族の関心を寄せている事柄には、時間をかけて理解納得されているのか確認しながらすすめています。退去についても丁寧に分かり易く説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の希望要望には、情報を職員間で共有して対応策を話し合い対応出来ています。必要時ご家族に電話連絡をとり、2ヶ月おきの青空便り、運営推進会議議事録(現在は書面)で、意見や要望を伝えてもらいやすいように工夫しています。	利用者から日々の会話の中で意見を聞いている。家族の訪問時や電話連絡の機会に聞いた意見を個人ノートに記録し、職員全員で共有をしている。運営推進会議でも家族の意見は議事録で確認ができる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や、特に変化のあった時はミニカンファレンスを行い職員の意見が反映されるようにしています。職員全員が情報の共有、統一した関わりが持てて行ける様に連絡ノート、個人ノートを活用しています。	日々の生活上の気づきは連絡ノートに記入し、職員間で共有している。管理者が個人面談をする機会がある他、突発的に気になる事があれば、都度面談をして意見や悩みを聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者にピンポイントで職場状況を報告しています。職場環境の整理整頓、物品収納の工夫をして職員各々の提案により職場環境が整っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症対策のためリモート研修に職員が参加しています。(認知症高齢者に対する虐待防止、身体防止適正化研修等)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ敷地内の福和会グループの朝風さんとは、常に連絡、情報交換協力体制をとっています。立花病院、隣のケアハウス、専属栄養士とも同じに協力協調できています。区の施設交流会にリモートで参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の認知度、心身の状況に合わせ、家族からの情報を基に話かけを多くもち不安、心配が薄らいでけるように職員は配慮しています。話しやすい雰囲気づくりを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に本人の生活の様子を家族から丁寧に傾聴しています。要望希望不安について施設のできる事や成り行きについて時間をかけて説明して質問にお答えしています。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人家族と、少なくとも2回面接して現在の不安や希望を傾聴、情報収集しています。それを元に施設サービスを始めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム入居後は永い生活経験のある先輩として職員は接しています。共に野菜の調理準備や果物の皮むき、お茶やお菓子の準備、洗濯物たたみ、枕カバー交換、その他について出来ることを見守りの中でしていただきます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に「家族と電話でお話し」の機会を設けています。お話し終了後は、「元気な声を聞けた」と嬉しそう表情で過ごされています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防のため休止しています。	外出制限期間のため、恒例の外出行事はできないが、絵の好きな利用者へ大人の塗り絵を勧めたり、外出行事に代わるレクリエーションを行っている。面会制限期間中でもあり、現在は「電話でお話し」の日を設定して家族と話す機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	工作、ジグソーパズル、計算ドリル、ゲームなど隣の方と協力して完成しようとする姿がよく見受けられています。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族が、立ち寄られ状況報告や相談をさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は個別性に合わせて、話しかける機会を多くもつように心がけています。茶話会、レクリエーション時の何気なくつろいだ発言内容からも希望や意向の気づきとして共有しています。	発語が困難な場合は、家族からの情報と生活歴を検討し意向の把握に努めている。日々の様子や会話から気付いた情報はノートに記入しているが、アセスメントシートに反映されていない。	アセスメントシートを定期的に更新することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にライフヒストリー、アセスメントシートの作成、入所前に利用していたサービスからの情報などから把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日頃の様子や行動を観察記録。健康状態記録。その人の得意や、不得意、支援が有ればできて行けそうな事も含めて介護計画を立てています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、家族、本人、その他の関わっている人達の意見や情報をもとに現在の状況にあった介護計画を作成している	ケアプランの評価は利用者の現状や目標と合致しているかを話し合い、検討したものを課題整理総括表で確認をしている。介護計画は本人や家族の希望と関係者の意見を盛り込み、現状に即したものを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にもとづいた介護記録をしています。特に必要事項は個人ノートに記載して職員間で共有しプランの見直し、計画作成としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的なプランの見直し、状況の変化に応じて対応を検討して柔軟な支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策のため地域資源との協働は休止しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院(立花病院)や、他医療機関受診する支援体制確保しています。看護師が日常の健康管理、受診経過把握して適切な医療が受けられるように支援しています。	法人の協力病院から緊急時を含め、日常的に医療を受けられる体制が整っている。必要に応じて歯科の往診もあり義歯の調整をするなど、適切に医療を受けている。	

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のカンファレンスや必要時緊急のカンファレンスで情報交換を密にしています。必要時外来受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を目標に情報交換、状況把握に努めています。医療機関に連絡入れたり、現在の様子をご家族に報告しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化予測される状況の場合、主治医、家族、管理者と話し合いを重ね、方向性を確認しています。立花病院入院、または他医療機関に転院となります。	利用者と家族へ契約時に「重度化した場合における対応について」の書面を読みながら説明をしている。終末期の場合は本人や家族の希望を主治医を含めて話し合い、法人の医療機関等に移行できるよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	バイタル測定、身体損傷の有無、感染症等について、職員間入居者の情報交換を密にしています。急変、事故の時は立花病院外来受診と、ご家族へ報告しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、3日分の食料備蓄、隣のケアハウスと協力関係になっています。	令和3年は机上消防訓練実施要領を作成し、昼夜を想定した火災訓練を行っている。災害時は同敷地内のケアハウスやグループホームとの協力体制が整っている。災害備蓄品も備えてある。	自然災害を想定した訓練を次回以降の訓練にて取り入れることを検討しているので、その取り組みと事業継続計画(BCP)の策定準備に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者のプライバシーを守り、その人の尊厳を守り丁寧な対応と分かり易い言葉かけ対応をしています。	職員入職時に認知症の理解や接遇に係る研修を実施している。言葉遣いは利用者を大切にする雰囲気有し、急がせず良好である。個人記録類は保管場所を取り決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かり易い問いかけをして、できるだけ本人に意思決定をもらい、希望にそえるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ朝食時間、余暇活動入浴時間その他についてそえる様に支援しています。声掛けして本人の希望を優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と連絡を取り、季節に合わせた服装、身だしなみになっていくように支援しています。コロナ禍で美容が入れない時は職員が整髪をしています。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	10時のお茶入れ、お菓子の準備、調理野菜の下準備を職員見守りの中で入居者にしてもらっています。テーブル拭き、食器の後片付けも協力してもらっています。	グループホーム専属栄養士が監修した献立で提供している。利用者は食事作業やおやつ作りに携わっており、力の発揮を支えている。お楽しみ会と誕生会では生ちらしなどを取り寄せ、いつもと違う特別な食を堪能している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日6回の飲水の提供、食事飲水量のチェックと食事摂取状況の観察をしています。各人に合わせた食事形態にして、嚥下状況を観察して対応しています。月初め体重測定、専属栄養士と相談もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯洗浄、歯磨き、夕食後のポリドント洗浄の支援をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェック表より個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導して排泄の失敗が少なくなるように支援しています。	排泄チェック表に食事・水分量を併記し全体像が把握できる仕組みのもとに記録されている。利用者の排泄へのシグナルやパターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。夜間も個々の状態に応じてサポートしている。自尊心を傷つけないように安心できる声かけに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操の実施と水分補給、排尿排便チェック表で便秘、正常、下痢を把握して早めの処置、下剤の内服コントロールしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の心身状況を把握して、入浴を楽しめるように対応しています。シャワー浴のみ、浴槽入浴希望に添い室温、水温に配慮して実施しています。	基本は利用者1人が週に2回であるが、清潔保持により入浴頻度が多い利用者もいる。利用者の意向やタイミングにて無理強いせずに対応している。脱衣所や浴室の保温に配慮し湯加減などの温度も適宜調節している。清潔感と会話を楽しんでもらい満足してもらえる入浴を介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣の違いから入床時刻は、各人違っています。夜間眠れていない時は、温かいお茶を提供して職員が話相手になり対応しています。室内環境を整えて安心されるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	立花病院外来処方薬を内服しています。誤薬のないように3回確認に務めています。飲み込みにくい方は2～3回に分けて内服しています。職員間で情報交換変化の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活者として各々の持てる能力に応じた役割分担をして実行してもらっています。主婦の経験があり、調理の下準備、食事やおやつ準備、洗濯物の片付けなど見守りでさせていただきます。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策で戸外遠方への外出は休止しています。 冬季以外、お天気の日には毎日立花病院中庭の散歩に全員で出かけています。	例年実施している外出行事は感染症の流行により中止であるが、花壇や木々のある整備された中庭へ出て散歩や外気浴を行っている。「青空」専用の畑があり苗植えや収穫作業をする利用者もおり、広い敷地内で戸外に親しめる環境である。事業所と病院は渡り廊下で繋がっており、歩行訓練にもなり得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族からお小遣いとしてお金を預かります。個別に必要時に家族と相談して使っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会制限継続しています。「電話で家族とお話」の機会を設けています。お互いに元気な声を聞いて笑顔の満ち足りた表情になられています。家族からのお手紙は手元において読み返しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	やわらかな暖色系の壁色で統一され冷暖房完備になっています。広い窓から中庭の自然風景が眺められています。ホールの壁面は季節に合わせた壁飾りを入居者、職員で制作して楽しんでいただいています。 お誕生会や催しの写真はパソコンでプリントして飾っています。	共用空間は中庭に面し明るい造りで季節の移り変わりを見る事ができる。全員がゆったり座れるビタミソカラーのソファは安心感や調和をもたらし、廊下には一休みできる木のベンチを配置している。壁面には利用者と職員の手作り作品や書道作品が飾られている。システム管理された冷暖房で室温を調整し、湿度を適宜管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事、レクリエーション活動のテーブル席は座る場所が決まっています。時々席替えをして交流を深めています。団欒のソファコーナーは気の合う方々がくつろぎ楽しそうにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が普段に使い、慣れ親しんでいたものを家族と相談して持ってきてもらっています。テレビ、衣類、タンス、化粧品を安全、使用しやすく配置しています。作品の掲示や家族の写真などを自由に飾っています。	居室入り口の写真やドアの色で自室と分かる工夫がある。間口が広く車椅子でも出入りがしやすい造りである。備え付けはベッド、カーテン、照明、ロスタイ、ナースコールを設備している。使い慣れた調度品や愛着のある物が持ち込まれている。動線を確保するなど利用者の状態変化に応じたサポートを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はフラットで居室壁は明るい暖色系仕様です。ドアは軽い引き戸、廊下トイレ浴室に手摺がついていて安全に移動できるようになっています。トイレ内も広く歩行器車椅子を使用している方も使いやすくなっています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム青空

作成日：令和 4年 3月 10日

市町村受理日：令和 4年 3月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメントシートを定期的に更新することを期待したい	アセスメントシートを定期的に更新していく	施設サービス計画短期目標3カ月おき見直し時、課題整理総括表と連動してアセスメントシートを定期的に更新していく	3カ月
2	35	自然災害を想定した訓練を次回以降の訓練にて取り入れることを検討しているため、その取り組みと事業継続計画(BCP)の策定準備に期待したい	①起こりえる自然災害を想定した訓練をしていく ②事業継続計画(BCR)を作成する	①停電、地震、水害、火災、夜間帯に災害が発生した時、及び災害時に職員が可及的速やかに施設に来られない状況時の想定した訓練 ②ガイドラインを基に目標期間に作成していく	①3カ月 ②令和5年12月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。